

町に眠る観光資源の発掘&情報発信

地域おこし協力隊活動報告会

3月14日、町地域おこし協力隊として活動している岩下小太郎隊員（関町）と上田裕己隊員（豊永）が活動報告会を行い、これまでの活動内容や今後の展望について発表しました。

令和2年に着任した岩下さんは、SNSを活用した情報発信や肥後琵琶文化の観光資源化などについて説明。「#南関っていいなあ」というキーワードとともに、町の特産品等をSNS上で紹介し、20ヵ月間で累計187万回もの反応を集めました。

昨年8月に着任した上田さんは、フットパスの導入による観光資源の発掘や交流人口増加の可能性等について説明。校区ごとの仮コースやイベント型フットパスを考案し、文化財や景観の保全にも繋げたいとしました。



▶報告をする岩下隊員

▶放水訓練をする新入団員



災害から町を守るために

消防団 辞令交付式

4月10日、令和4年度南関町消防団辞令交付式を町役場駐車場で開催し、新幹部16人、部長20人、新入団員12人に辞令を交付しました。

新入団員を代表して、第二分団六部の菊池賢二郎さん（久重）が「火災などの災害から生命・財産を守り、一人ひとりが自己の責務を認識し、消防業務全般について使命感達成に努めることを誓います」と宣誓しました。

その後、新入団員は南関分署署員から規律訓練や放水訓練などの指導を受け、消防団員としての気持ちを新たにしました。

全国小学生ソフトテニス大会へ出場

ソフトテニス 枡本健哉さん

3月25日、ソフトテニスの玉名/南関ジュニアに所属する枡本健哉さん（関町）が佐藤町長を訪問し、3月29日に千葉県で開催された第21回小学生ソフトテニス大会への出場を報告しました。

本大会に出場する枡本さんは、熊本県民総合運動公園で行われた第21回全国小学生ソフトテニス大会熊本県予選会で3位に輝き、全国大会への切符を手に入れました。

枡本さんは「自分の精一杯の力を発揮して試合に挑み、ベスト8を目指して頑張ります」と意気込みを語り、佐藤町長は「後輩たちが枡本さんを目標とできるようペアの子と協力して頑張ってください」と激励しました。



▶枡本健哉さん(中央)

▶熊谷瑠菜さん(中央右)



いじめ防止標語 全国賞受賞

二小 熊谷 瑠菜さん

3月28日、第二小学校（隈部孝二校長）6年生（当時の熊谷瑠菜さん（豊永）が佐藤町長を訪問し、令和3年度いじめ防止標語コンテストで全国賞を受賞したことを報告しました。

当コンテストには、県内49の小学校から5814の応募が集まり、その中で最も優れた作品に送られる全国賞を今回受賞しました。

熊谷さんは「いじめや差別にまずは気づくことが大事。いじめや差別がだめなことだともっといろんな人に広まってほしい」と話しました。

- 作品
「助けて」と 言ってるそばで 笑い声

産学連携 オープンカンファレンス開催

熊本学園大学×ヤマチク

3月18日、南の関から館で熊本学園大学の嶋田ゼミと学生団体「びあラボ」が、株式会社ヤマチク（山崎清登代表取締役）とオープンカンファレンスを開催し、1年間の産学連携の取組みと成果報告を行いました。

嶋田ゼミの3年生11人とびあラボの学生6人は、2021年4月からヤマチクと共同で販売イベントの企画・運営や熊本学園大のノベルティ等の企画・デザイン等の課題解決プロジェクトに取り組んできました。当日は、プロジェクトの内容や企画を進める中で得た経験や学び、成果を町長や町議員の前で発表しました。

その後、「『まち』をTransform(変革)させる!」をテーマに、佐藤安彦町長と学生代表の浦ちさとさん、ヤマチクの山崎彰悟専務がパネルディスカッションを行い、これからのまちづくりについて意見を交換しました。

▶成果報告をする学生



▶ホタルの幼虫を大事に放流する児童



5月にまた会おう!

二小4年生 ホタルの幼虫を放流

3月15日、第二小学校（隈部孝二校長）の4年生（当時）13人は、久重の「ホタルの里公園」で、ホタルの幼虫80匹を放流しました。

同小学校では、エコア熊本と鹿島環境エンジニアリング協力の下、地域で減少しているホタルを呼び戻すため3年前からホタルの幼虫を育成し、放流する活動を行っています。児童は、9月から約半年間教室で大切に育てたホタルの幼虫とその餌になるカワニナを「また会おうね」などと声をかけながら丁寧に川へ放流しました。

小竹実空さん（高久野）は「5月に大きく成虫に育ったホタルに会えるのが楽しみ」と笑顔を輝かせました。

コロナ感染拡大防止を願って

玉名法人会 アルコール消毒液を寄贈

3月29日、玉名法人会（高岡弘一会長）は南関中学校へアルコール消毒液15kgと詰め替え用ボトル6本を寄贈しました。

当団体では、租税教育の促進と地域社会貢献を目的に例年支援事業を行っていますが、感染症拡大の影響で今年も一部事業が中止に。そこで、感染症拡大防止を願い、アルコール消毒液および詰め替え用ボトルを贈りました。

玉名法人会の高森さんは「感染症が収まればはやく子どもたちの日常を取り戻すための一助になれば」と話しました。

▶玉名法人会地区長 山崎清登さん(左)



▶噴霧器が寄贈され笑顔の生徒(中央)



高校生製作の感染防止器具が活躍

中学校へ足踏み式アルコール噴霧器寄贈

3月16日、新型コロナウイルス感染症対策に役立ててほしいと玉名工業高校から南関中学校（永杉尚久校長）へ足踏み式アルコール噴霧器1台が贈られました。

この足踏み式アルコール噴霧器は、玉名工業の5つの学科（機械科・電気科・電子科・工業科・土木科）の生徒が共同で製作したもので、足踏みするとLEDのライトが点灯するなど、機能性と遊び心を両立させた造りになっています。

代表して受け取った健康委員会の島中悠月さん、中嶋海音さんは「ありがとうございます。ライトが点灯するところがおもしろく、感染予防もより進んでやれると思います」と感謝の言葉を述べました。

なお、足踏み式アルコール噴霧器は、現在職員室前で活用されています。